



# 4. 8階の住人



もみ ひとり

賃貸住宅のドアを開けると、目に入ってくる、向いのマンションのベランダ。  
私は、そこに時々現れる人物に興味がある。

向いのマンションは、雑居ビルのいでたちで、人が住んでるようには見えない。  
かといって、テナントが入っているわけでもなさそうなのだ。  
晴れた日はよくわかる。ガラス越しに見える室内は、ただの物置のように見え、人が活動している様子がない。

そんな、雑居ビルのベランダにふと現れる人物が、彼である。  
なんで、あんなところにいるんだろう。物置で何をしているのか。

彼は、よく、煙草にふけている。  
ベランダの手すりに体を預けて。

煙草を吸っていると、ときどき思い出す。空気中の成分を煙草というフィルターを通して汚していることを。しかし、人間が普段する呼吸も、二酸化炭素を排出しているのだから、喫煙者だけが咎められる必要はない。  
生命活動事態が、汚染なのだ。

きっと、向いのマンションの1室から出てきたあの女だって、同じだ。  
化粧ばっちり、服もひらひらのを着ているな。  
その化粧も、服も、きっと……。

女は、男の姿をとらえ、  
男は、女を眺め、  
4．8階からの一瞬の交錯は、  
今日も、人類活動という重たい空気中へ消散していった。